

## 平成22年度 学校評価報告書

教育目標	学校経営の目標	学校番号	学校名	
○「根（こん）」 たくましい子 ○「智（ち）」 よく学ぶ子 ○「和（わ）」 思いやりのある子	○自他の心や身体を大切にし、共に健やかに育ち合おうとする子。 ○しっかりとした学習習慣を身に付け、よりよく考え判断し表現しようとする子。 ○互いの気持ちや立場を理解し合い尊重し合う子。	49	川崎市立下小田中小学校	
		校長名	新 山 達	
今年度の重点目標				
○豊かな人権感覚に基づいた教育活動の展開    ○確かな学力の保障    ○開かれた学校づくり    ○下小田中小教育プランの策定    ○施設・設備の整備充実				
評価項目	具体的な取組	評価項目（下小田中小学校は…）	成果と課題	次年度のに向けての方策
豊かな人権感覚に基づいた教育活動の展開	○自己実現を果たす場としての学校。（自分や他人を肯定的に認めることのできる集団） ○「心の居場所としての学級・学年。 ○受容と共感、傾聴の精神に基づく児童指導・教育相談体制の整った学校。	1) 子ども達が自分や友だちのよさに気付き、自信を持って生活できるよう支援している。 2) 子どもが安心して楽しく学校生活を送れるようよりよい集団づくりに取り組んでいる。 3) 「さん」付けやあいさつが習慣化するよう指導をしている。	子どもの声にしっかりと耳を傾けようとする職員の姿が見られた。また各学級・学年とも概ね落ち着いた雰囲気です。1年間を経過することができた。学級経営上の工夫と同時に、学年経営の視点を大切にしつつ、学級経営に臨んだことが功を奏したと思う。更に個々の児童にしっかりと目を向けることを大切にしたい。	人権尊重教育の研究を机上のものだけでなく、学校全体に具現化していくために、更に個々の児童への理解と支援を確実なものにしていく必要がある。また学年がチームとしてのつながりを一層強め、よりよい学級集団、学年集団の形成に力を尽くしていかなければならない。
確かな学力の保障	○分かりやすい授業、個に応じた指導・支援の工夫。教材・教具の整備充実。 ○学校、家庭における充実した学習習慣の確立。 ○特別支援教育の充実。様々な個性や障害の正しい理解と対応。	4) 基礎基本となる学力が身に付くよう分かりやすい授業を行っている。 5) 学校や家庭での学習習慣が身に付くよう保護者と協力して指導している。 6) 一人一人の個性やニーズに合った指導・支援を行うよう努力している。	多くの授業の中に研究の成果が現れ始めている。指導のきめ細かさや場の工夫などに向上がみられる。個に応じた指導という面では、特別支援学級においても通常学級においても今後、更に工夫や努力を重ねていく必要がある。研究を通して学習場面における児童の自信や意欲をより一層引き出し伸ばしたい。	22年度は「話す力・聞く力」の育成に重点を置いて学力向上を図ってきた。23年度は「話し合う力」へと発展させ、国語科を中心に全教科・領域へ波及させたい。また新学習指導要領の全面実施を踏まえ、指導法の開発や授業時数の確保を図っていかなければならない。
開かれた学校づくり	○地域・家庭との連携強化。地域・保護者の教育力の積極的な活用。 ○学校評価の充実。学校運営改善に生きる評価の実施 ○安心安全な学校づくり。安心安全な校外生活のための地域との協力体制づくり。	7) 教育支援ボランティアやゲストティーチャーなど地域の教育力を活用している。 8) 教育目標や学校の様子を家庭・地域に分かりやすく伝えている。 9) 地域や家庭と連携して安心安全な学校になるよう努力している。	学習面、安全面において地域の協力体制は絶大である。学校職員も積極的に地域や地域行事に関わろうとする姿勢が見られるようになった。こうした点を含めて学校情報を更に積極的に地域や家庭に広報していく必要性を感じている。学校からの各種お便りや学校HPの更なる活用を考える必要を感じている。	地域の教育力は体験的な学習や交通安全指導の中に大きく生かされている。特に体験的な学習は新教育課程にも確実に位置づけ、継続を図る必要がある。地域からの協力だけでなく、学校と地域の双方向の関りへと発展させたい。そのためにも学校情報を積極的に発信していきたい。
下小田中小学校教育プランの策定	○新学習指導要領の理解と対応。 ○児童や地域の実態に即した教育課程の整備。 ○共同研究の推進。（国語科の学習を通じた人権尊重教育の推進）※保護者・児童の評価は『施設設備の充実』についてお願いした。	10) 学習が分かりやすく楽しく行われるよう教材・教具の整備をしている。 11) 校庭や校舎の整備がなされ安全で快適な学校生活を送ることができる。 12) トイレや水飲み場など数が適切で使いやすく清潔に保たれている。	校地内に段差が多く、車椅子の児童には大変に不便である。加えて大規模校ということもあり、健常な児童にとっても危険である。またプールにろ過装置がなく衛生上の問題がきわめて大きい。校舎の老朽化に伴う不備については修繕を重ねているが、プールとともに根本的には全面改築が望まれるところである。	施設設備の不備や老朽化についての抜本的な解決策は全面改築しかないが、現状では修繕を重ねながら最大限の安全確保を図っていくことが大切である。定期的な安全点検を確実に実施し、危険個所の発見と修繕・補修を迅速に行うよう努める。教育委員会の理解と協力が不可欠である。
本年度の評価のまとめ（成果と課題）		学校関係者の意見		
評価項目（1）（2）（9）や（4）（10）について児童、保護者、教職員とも比較的に高い評価を下している。人権尊重教育への取り組みの成果だと思われる。よりよい集団づくりと同時に個に対する理解を一層深めながら、人権尊重教育の実践的な研究を推進し、日常の教育活動に根付かせていきたい。		<b>子ども委員</b> …廊下歩行・持ち物（学用品）・清掃などもっときちんとできるとよい。先生方の指導も徹底してほしい。清掃場所の分担の仕方や清掃道具の修理などお願いしたい。あいさつ運動のボランティアがもっと増えるように呼び掛けたい。読書がもっと活発になればよいと思う。学級用のボールに穴が空いたら取り替えてほしい。色々な場でみんながもっと活発に発言したり、話し合ったりできるようになるとよい。通学路に信号を増設してほしい。 <b>地域・保護者委員</b> …北公園の改修の基本計画に7月の下小教育推進会議で出された意見・要望を盛り込んだ。PTAの資源回収に学校からの資源も出してほしい。自転車の乗り方について低学年の内から指導してほしい。信号についてはお願いはしてみるが順番などあつてすぐには難しいかもしれない。		